

臨床実習Ⅰ	歯科保存修復学
-------	---------

[実習] 第5学年 前後期 必修

《担当者名》歯科クリニック

○教授／斎藤 隆史 t-saito@
 講師／泉川 昌宣 s-izumi@
 助手／櫻井 雅彦e19pl@

大学病院

教授／伊藤 修一 shu@
 助教／尾立 達治 odachi@

准教授／松田 康裕 ymatsuda@

助教／永井 康彦 nagai@
 助手／中脇 和輝k-nakaw@

助教／油井 知雄 yuit@

講師／森 真理 marichan@

助教／小西 ゆみ子 yumikom@

【概 要】

う蝕及びその他の硬組織疾患の治療のため、コンポジットレジン修復についての知識、技能及び態度を修得する。

【学修目標】

- ☆ 形成部位に応じて適切なう蝕除去用のバーを選択する。
- ☆ 適切なハンドピース操作を行う。
- ☆ コンポジットレジン充填のための適切なレジン窩洞形成を行う。
- ☆ コンポジットレジンの充填・研磨を適切に行う。
- ☆ 歯髄保護に配慮する。
- ☆ 必要に応じて局所麻酔を行い無痛的な操作を行う。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	◎〈総合〉 臨床実習説明・外來說明 器具・器材の点検	● 臨床実習の進め方や諸注意、外来の使用方法などについての全般的な説明をうける。その後、これから使用する器具・器材の整備、整頓をし、同時にこれらの名称、用途、使用法を再確認する。	斎藤 隆史 松田 康裕 泉川 昌宣 永井 康彦 油井 知雄 櫻井 雅彦 中脇 和輝 伊藤 修一 森 真理 尾立 達治 小西 ゆみ子
	◎（シミュレーション実習） 1. I級コンポジットレジン修復 2. III・IV級コンポジットレジン修復 3. 歯科用レーザーを用いたう蝕除去実習 4. 診療姿勢・切削圧実習 5. MO Box式インレー修復	● シミュレーション実習により、より天然歯に近い切削感及び、実際の臨床に即した窩洞形成法、裏層法、レジン修復法及びエアータービンによる切削法、バキュームによる排水、ミラーによる排除等の手技を習得する。 ● シミュレーション実習を通して、III、IV級コンポジットレジン修復用の窩洞形成法を習得すると共に光重合型コンポジットレジンの適応。用法についても学ぶ。 ● 歯科用レーザー及びう蝕付き人工歯を用いて、レーザーのメカニズム及びう蝕除去法に関する技能を習得する。 ● シミュレーターを用いて、正しい診療姿勢・切削圧について習得すると共に、ミラーテクニックの基礎についても学ぶ。	斎藤 隆史 松田 康裕 泉川 昌宣 永井 康彦 油井 知雄 櫻井 雅彦 中脇 和輝 伊藤 修一 森 真理 尾立 達治 小西 ゆみ子
	◎（診療介助・診療見学）	● 診療見学、介助、一部診療を行う。	斎藤 隆史 松田 康裕 泉川 昌宣 永井 康彦 油井 知雄 櫻井 雅彦 中脇 和輝 伊藤 修一 森 真理

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
			尾立 達治 小西 ゆみ子
	◎（診療参加型臨床実習） （自験）	● 配当された患者の検査、治療計画の立案、治療、予後の観察までの一連の流れを習得する。必要に応じて、スキルラボを使用して予習・復習を行う。	斎藤 隆史 松田 康裕 泉川 昌宣 永井 康彦 油井 知雄 櫻井 雅彦 中脇 和輝 伊藤 修一 森 真理 尾立 達治 小西 ゆみ子
	◎（臨床推論） ◎（臨床フィードバック講義）	● 保存修復に関する臨床推論ならびに臨床フィードバック講義を行い、高い臨床能力が求められる症例を補完するとともに臨床推論能力を高める。 G-1-1)①②③④、G-2)②③	斎藤 隆史 松田 康裕 泉川 昌宣 永井 康彦 油井 知雄 櫻井 雅彦 中脇 和輝 伊藤 修一 森 真理 尾立 達治 小西 ゆみ子

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

◇ 臨床実習Ⅰで課せられた課題とケース数の総合評価（ミニマムリクワイアメントは別途提示）とする。

【参考書】

「保存修復学臨床基礎実習の手引き」う蝕制御治療学分野

「保存修復学」千田彰 宮崎真至 林美加子 向井義晴 斎藤隆史 編集 医歯薬出版

「保存修復学21」田上順次 奈良陽一郎 山本一世 斎藤隆史 編集 永末書店

「保存修復クリニカルガイド」千田 彰、寺下 正道、田上 順次、奈良 陽一郎、宮崎 真至、片山 直 編集 医歯薬出版

「保存修復臨床ヒント集」寺中 敏夫・井上 正義・寺下 正道 編集 クインテッセンス出版

【学修の準備】

☆ 診療（自験）・介助・見学を行う症例について、その内容をインストラクターとディスカッションを行い、その症例に関わる内容を予習しておく。また、事前にスキルラボを利用し、実技の予習を行っておく。(1症例15分)

☆ 診療（自験）・介助・見学後は、症例内容についてプロトコル・リンクノートを作成したうえ、インストラクターとディスカッションを行う準備をしておく。また、自験を行った症例については、症例検討会を行う準備をしておく。(1症例15分)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。

（専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力）

DP 2. 「総合的に患者・生活者を支える歯科医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている。

（総合的に患者・生活者をみる姿勢、プロフェッショナリズム、コミュニケーション能力）

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。

（科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢）

DP4. 多職種（保健、医療、福祉、介護）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。

（多職種連携能力）

DP5. 歯科医療の専門家として、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野を持ちながら活躍できる能力を身につけている。

（社会における医療の役割の理解）

【実務経験】

斎藤 隆史（歯科医師）、泉川 昌宣（歯科医師）、松田 康裕（歯科医師）、永井 康彦（歯科医師）、油井 知雄（歯科医師）、櫻井 雅彦（歯科医師）、中脇 和輝（歯科医師）、伊藤 修一（歯科医師）、森 真理（歯科医師）、尾立 達治（歯科医師）、小西 ゆみ子（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

歯科医師として保存修復分野の臨床経験5年以上の教員が指導医となり、3-5年の教員が上級医として実習を担当している。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している